



2019年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2018年11月9日

上場会社名 日本甜菜製糖株式会社
 コード番号 2108 URL <http://www.nitten.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長
 四半期報告書提出予定日 2018年11月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 恵本 司
 (氏名) 八巻 唯史
 TEL 03-6414-5522

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第2四半期の連結業績(2018年4月1日～2018年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	27,564	0.4	383	74.8	613	65.7	486	58.1
2018年3月期第2四半期	27,678	4.3	1,523	38.0	1,791	40.7	1,161	53.2

(注) 包括利益 2019年3月期第2四半期 201百万円 (79.6%) 2018年3月期第2四半期 986百万円 (48.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	34.30	
2018年3月期第2四半期	82.11	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期第2四半期	91,586	67,837	74.1	4,779.76
2018年3月期	99,106	68,260	68.9	4,821.55

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 67,837百万円 2018年3月期 68,260百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期				50.00	50.00
2019年3月期					
2019年3月期(予想)				50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	58,000	1.5	1,200	24.3	1,500	24.4	1,100	10.1	77.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計方針の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 有

修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計上の見積りの変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2019年3月期2Q	15,325,642 株	2018年3月期	15,325,642 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2019年3月期2Q	1,132,888 株	2018年3月期	1,168,224 株
------------	-------------	----------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

2019年3月期2Q	14,179,550 株	2018年3月期2Q	14,146,374 株
------------	--------------	------------	--------------

(注)2018年3月期の自己株式数には、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(従業員持株E S O P信託口)の所有する当社株式が含まれております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(日付の表示変更について)

当第2四半期より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計上の見積りの変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2018年4月1日～2018年9月30日)におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続いている中、個人消費もゆるやかに持ち直しており、企業収益も改善傾向で推移しております。海外経済ではアメリカやユーロ圏の景気が回復している一方、通商問題やイギリスのEU離脱、国際情勢の緊迫化など不安定要素が増しており、先行き不透明な状況が続いております。

砂糖業界におきましては、消費者の低甘味嗜好を背景に、安価な輸入加糖調製品や高甘味度人工甘味料の増加などから砂糖消費量は減少傾向にあり、厳しい状況が依然として続いております。

このような状況のもと、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比0.4%減の27,564百万円となり、経常利益は、砂糖事業の減益等もあり前年同期比65.7%減の613百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比58.1%減の486百万円となりました。

セグメント別の概況は、次のとおりであります。

＜砂糖事業＞

海外市況につきましては、ニューヨーク市場粗糖先物相場(当限)において1ポンド当たり期初12.52セントで始まり、4月下旬には主要生産国のインドやタイの砂糖生産量見通しの引き上げとインド政府が輸出補助金を措置するとの憶測から10.86セントまで下落しました。その後、5月には主要生産国ブラジルで燃料価格値上げに抗議するトラック運転手らによるストライキが行われ、一時的に物流が混乱し供給不安が高まったことにより12.79セントまで上昇しました。

しかしながら、世界市場が今年度、次年度と2年連続の供給過剰となる見通しに加え、ブラジル通貨レアル安の進行、インドが新たに輸出奨励策を打ち出したこと等により相場は下落し10.42セントで当第2四半期連結累計期間を終えました。

一方、国内市況につきましては、期初189円～190円(東京精糖上白現物相場、キログラム当たり)で始まりましたが、海外砂糖相場下落を受けて7月に187円～188円に下落し、そのまま当第2四半期連結累計期間を終えました。

ビート糖は、2017年産糖の大幅な生産増加により、原料糖の販売量が増加しましたが、前年同期に比べ国内砂糖市況の下落に伴い販売価格は下落し、売上高は前年同期を下回りました。

精糖は、需要の減少もあり販売量が減少し、更に販売価格も下落したことにより、売上高は、前年同期を下回りました。

砂糖セグメントの売上高は前年同期比3.2%減の19,536百万円となり、販売価格の低迷等の影響が大きく、28百万円のセグメント損失(前年同期は1,139百万円のセグメント利益)となりました。

＜食品事業＞

イーストは販売量の減少により、売上高は前年同期を下回り、燃料費の上昇や設備投資などによる製造原価の増加もあり利益が減少しました。

オリゴ糖等機能性食品は、オリゴ糖などの販売量が減少し、売上高は前年同期を下回りました。

食品セグメントの売上高は前年同期比2.8%減の1,303百万円となり、8百万円のセグメント損失(前年同期は100百万円のセグメント利益)となりました。

＜飼料事業＞

配合飼料は、販売量の増加と販売価格の上昇により、売上高は前年同期を上回りました。

ビートパルプは、前期の生産増による繰越在庫を販売したことにより、売上高は前年を大幅に上回りました。

飼料セグメントの売上高は前年同期比6.8%増の3,921百万円となり、21百万円のセグメント利益(前年同期は65百万円のセグメント損失)となりました。

＜農業資材事業＞

紙筒(移植栽培用育苗鉢)は、そ菜用の売上が好調に推移したため、売上高は前年同期を上回りました。

農業機材は、そ菜用の販売増加等により、売上高は前年同期を上回りました。

農業資材セグメントの売上高は前年同期比31.4%増の1,422百万円となり、54百万円のセグメント利益

(前年同期は41百万円のセグメント損失)となりました。

<不動産事業>

不動産セグメントの売上高は、前期に取得した物件の寄与により、前年同期比7.2%増の746百万円となりましたが、セグメント利益は、経費の増加により前年同期比9.9%減の409百万円となりました。

<その他>

その他のセグメントの売上高は石油類の販売減少等により前年同期比11.0%減の634百万円となり、114百万円のセグメント損失(前年同期は110百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末比7,520百万円減の91,586百万円で、このうち流動資産は、主にたな卸資産の減少により前連結会計年度末比6,890百万円減の39,409百万円となり、固定資産は、前連結会計年度末比629百万円減の52,176百万円となりました。

一方、負債の合計は、前連結会計年度末比7,097百万円減の23,748百万円で、このうち流動負債は、主に短期借入金の減少により前連結会計年度末比6,744百万円減の11,604百万円となり、固定負債は、前連結会計年度末比353百万円減の12,143百万円となりました。

純資産は、前連結会計年度末比422百万円減の67,837百万円となりました。

なお、『税効果会計に係る会計基準』の一部改正(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

②キャッシュ・フローの状況

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、11,877百万円の収入となり、前年同期に比べ、184百万円の資金の減少となりました。

これは、主に売上債権の減少で1,103百万円、法人税等支払額の減少で237百万円の資金の増加となったものの、たな卸資産の増加で1,417百万円、保険金の受取額の減少で130百万円の資金の減少となったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、2,280百万円の支出となり、前年同期に比べ、1,885百万円の資金の減少となりました。

これは、主に有形固定資産の売却による収入で476百万円、定期預金の収支差による収入で100百万円の資金の増加となったものの、有価証券の収支差による支出で2,500百万円の資金の減少となったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、10,269百万円の支出となり、前年同期に比べ1,919百万円の資金の減少となりました。

これは、短期借入金の返済による支出で2,000百万円の資金の減少となったことによるものであります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前年同四半期連結累計期間末に比べ1,092百万円減少し、10,905百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年3月期の業績予想につきましては、2018年8月10日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,578	4,505
受取手形及び売掛金	7,864	7,278
有価証券	7,000	8,000
商品及び製品	19,081	8,959
仕掛品	4,519	239
原材料及び貯蔵品	2,175	4,178
その他	1,082	6,248
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	46,300	39,409
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	11,483	12,191
その他（純額）	13,856	13,165
有形固定資産合計	25,340	25,356
無形固定資産		
無形固定資産	271	282
投資その他の資産		
投資有価証券	25,266	24,891
退職給付に係る資産	1,113	1,150
その他	817	500
貸倒引当金	△4	△4
投資その他の資産合計	27,193	26,537
固定資産合計	52,805	52,176
資産合計	99,106	91,586

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,451	1,201
短期借入金	11,752	2,056
未払法人税等	186	282
その他	4,958	8,063
流動負債合計	18,348	11,604
固定負債		
長期借入金	221	277
役員退職慰労引当金	18	17
退職給付に係る負債	4,779	4,837
その他	7,476	7,011
固定負債合計	12,496	12,143
負債合計	30,845	23,748
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,279	8,279
資本剰余金	8,409	8,420
利益剰余金	41,908	41,687
自己株式	△2,421	△2,348
株主資本合計	56,176	56,038
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,870	11,601
繰延ヘッジ損益	△0	9
退職給付に係る調整累計額	214	188
その他の包括利益累計額合計	12,084	11,799
純資産合計	68,260	67,837
負債純資産合計	99,106	91,586

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
売上高	27,678	27,564
売上原価	19,821	20,498
売上総利益	7,856	7,066
販売費及び一般管理費		
販売費	4,856	5,186
一般管理費	1,476	1,496
販売費及び一般管理費合計	6,333	6,683
営業利益	1,523	383
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	247	269
持分法による投資利益	27	13
その他	78	45
営業外収益合計	357	331
営業外費用		
支払利息	40	47
固定資産処分損	34	36
その他	13	16
営業外費用合計	88	100
経常利益	1,791	613
特別利益		
固定資産売却益	9	122
投資有価証券売却益	-	6
特別利益合計	9	128
特別損失		
固定資産処分損	17	23
減損損失	66	-
投資有価証券評価損	27	-
特別損失合計	111	23
税金等調整前四半期純利益	1,690	719
法人税等	528	233
四半期純利益	1,161	486
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,161	486

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益	1,161	486
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△187	△269
繰延ヘッジ損益	6	9
退職給付に係る調整額	5	△25
その他の包括利益合計	△175	△285
四半期包括利益	986	201
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	986	201
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,690	719
減価償却費	1,068	1,214
減損損失	66	—
持分法による投資損益 (△は益)	△27	△13
災害損失引当金の増減額 (△は減少)	△163	—
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	37	65
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△68	△80
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	2	△1
受取利息及び受取配当金	△251	△272
支払利息	40	47
投資有価証券評価損益 (△は益)	27	—
有形固定資産売却損益 (△は益)	△10	△125
有形固定資産除却損	29	26
売上債権の増減額 (△は増加)	△517	585
たな卸資産の増減額 (△は増加)	13,815	12,398
前払費用の増減額 (△は増加)	△71	△72
未収入金の増減額 (△は増加)	151	441
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△5,879	△5,614
仕入債務の増減額 (△は減少)	138	△249
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△353	△15
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	2,363	2,727
その他	△69	△60
小計	12,017	11,721
利息及び配当金の受取額	251	272
利息の支払額	△50	△65
保険金の受取額	137	6
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△294	△56
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,061	11,877
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,300	△600
定期預金の払戻による収入	600	—
有価証券の取得による支出	△9,000	△3,500
有価証券の売却及び償還による収入	10,500	2,500
有形固定資産の取得による支出	△930	△1,209
有形固定資産の売却による収入	49	526
貸付けによる支出	△222	△23
預り保証金の返還による支出	△87	△89
その他	△3	115
投資活動によるキャッシュ・フロー	△394	△2,280
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,920	1,920
短期借入金の返済による支出	△9,620	△11,620
長期借入れによる収入	130	130
長期借入金の返済による支出	△93	△70
配当金の支払額	△703	△704
自己株式の売却による収入	26	84
その他	△8	△8
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,350	△10,269
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	3,316	△672
現金及び現金同等物の期首残高	8,682	11,578
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,998	10,905

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

①原価差異の繰延処理

操業度等の季節的な変動に起因して発生した原価差異につきましては、原価計算期間末までにはほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産（その他）及び流動負債（その他）として繰延べております。

②税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(会計上の見積りの変更)

退職給付に係る会計処理において、従来、数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理年数は15年としておりましたが、従業員の平均残存勤務期間が短縮したため、第1四半期連結会計期間より費用処理年数を14年に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ8百万円増加しております。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自 2017年4月1日 至 2017年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	砂糖	食品	飼料	農業資材	不動産	計		
売上高								
外部顧客への売上高	20,172	1,340	3,672	1,082	696	26,965	712	27,678
セグメント間の内部 売上高又は振替高	86	16	8	38	56	206	1,860	2,067
計	20,259	1,356	3,681	1,121	753	27,171	2,573	29,745
セグメント利益 又は損失(△)	1,139	100	△65	△41	454	1,586	△110	1,476

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、貨物輸送、石油類の販売及びスポーツ施設・書店の営業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	1,586
「その他」の区分の利益又は損失（△）	△110
セグメント間取引消去	47
その他の調整額	△0
四半期連結損益計算書の営業利益	1,523

II 当第2四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	砂糖	食品	飼料	農業資材	不動産	計		
売上高								
外部顧客への売上高	19,536	1,303	3,921	1,422	746	26,930	634	27,564
セグメント間の内部 売上高又は振替高	83	16	8	25	58	192	2,975	3,167
計	19,619	1,320	3,929	1,447	805	27,123	3,609	30,732
セグメント利益 又は損失（△）	△28	△8	21	54	409	448	△114	334

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、貨物輸送、石油類の販売及びスポーツ施設・書店の営業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	448
「その他」の区分の利益又は損失（△）	△114
セグメント間取引消去	48
その他の調整額	0
四半期連結損益計算書の営業利益	383

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更に記載の通り、第1四半期連結会計期間より退職給付に係る会計処理において数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理年数を変更したことに伴い、事業セグメントも同様に費用処理年数を変更しております。

なお、この変更による当第2四半期連結累計期間のセグメント利益又は損失に与える影響は、軽微であります。